

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼小伊木町3丁目170番地1		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170500702-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170500702-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから臨む犬山城や木曾川、リビング目の伊木山など四季折々の景観があり、自然に恵まれた開放感ある環境の中、併設施設である特養やデイサービスなどと連携しながら、地域社会との継続的な関係を築いています。利用者の状態や趣向に合わせて、できることややりたいことに着目し、職員が気付ける力を養いながら一人ひとりの生活が活性化するように支援しています。「笑顔」「ゆとり」「チームワーク」をモットーに士気を高め合い、利用者の生活リズムに応じたサービス提供に努め、一人ひとりが張り合いや自信、楽しみを持って生活意欲を高めて頂けるようにサービスの充実を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同法人の特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス等、複合施設として連携しながら運営されており、庭に、紫陽花の木があるグループホームは、「あじさい」と呼ばれている。利用者は、法人内で馴染みの関係ができ、地域の一員としても、近隣住民と日常的な付き合いができています。職員は、利用者が自分に自信を持って、張り合いのある生活を送れるよう、一人ひとりの思いと暮らし方に寄り添いながら支援している。毎年職員間で目標を決め、互いにモチベーションを高めながら、利用者サービスの向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるように理念を共有し、毎日の支援を行っている。事業所の憲章もあり、職員の意見を反映しながら年度毎に見直しをしている。	「笑顔」「ゆとり」「チームワーク」を理念に掲げ、日々のケアを振り返りながら、職員会議で共有している。住み慣れた地域で、利用者の状態や趣向に合わせ、やりたいこと、できることに着目し、生活の活性化を目標として取り組んでいる。	今年の目標は「チームワーク」である。先輩職員による、後輩へのきめ細やかな指導を継続し、さらにレベルアップを図り、目標が達成できることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェへの参加や地域の清掃活動などを通して、地域との繋がりが確保できている。自治会主催の花見や地区の運動会にも参加しており、恒例行事となっている。	地域の行事や清掃活動に参加したり、運動会、花見などでも地域住民と交流している。また、地域のサロンで「認知症講座」や「健康体操」を行うなど、介護相談の窓口として、相互に助け合う関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭や秋祭りなど、施設の行事に地域の方を招き、地域に開かれた事業所であることを示しながら理解を得られるようにしている。実習生やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、事業所の取り組み状況や満足度調査結果などを報告する中で、参加者から得た助言を共有しながらサービス向上に役立っている。	運営推進会議は、区長、民生委員、行政、家族、利用者が参加し、事業所の取り組み内容や今後の予定、ヒヤリハットなどで意見交換をしている。近隣住民の居場所づくりとして、施設機能を活かした催しを行ってほしいという意見があり、検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設事業所である地域包括支援センターとも情報交換しながら、随時相談できる関係を築いている。資料提出や介護保険更新手続きの際には、可能な限り利用者を同伴して市の窓口へ出向いている。	行政担当者から、介護保険の動向や地域の高齢者の現状等の説明を受け、意見交換している。困難事例は随時相談し、行政主催の会議に参加したり、連携を密にして利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法人として、行わない指針を掲げている。定期的な会議や勉強会を通して、グレーゾーンの認識も含め、利用者の安全を確保しながら身体拘束を行わないケアを実践している。	運営推進会議において、身体拘束適正化への実施状況を説明している。研修会を開催したり、3か月に1回の委員会を開催し、会議の内容や結果について、職員全員に周知を図り、拘束を行わないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待に対する認識を高めながら防止に努めている。打撲痕などの早期発見に努め、家族と情報交換しながら虐待と疑われないような環境づくりを行っている。		

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して制度に関する理解を深めながら、併設事業所と協力し、利用者が安心して施設を利用して頂けるように整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に関わらず、利用者からの不安や疑問にはその都度丁寧に説明し、理解を得られるようにしている。利用者の状態変化に応じて関係機関と調整を図りながら、迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会と満足度アンケートを実施し、ニーズをすくい上げている。アンケートの結果は家族に公表し、意見によっては検討しながら信頼関係に繋がるように努めている。	家族の訪問が多く、利用者の生活、介護計画の進捗状況などで意見交換をしている。食事作りや居室の掃除など、残存能力を積極的に活かすことで、家族から「こんなことができた」など、喜びの音が聴けたり、利用者の生きがいのについても話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回職員アンケートを実施し、可能な限り職場環境が改善されるように検討を重ねて実践している。個別面談も行って、個々のモチベーション維持・向上に繋げている。	職員とリーダーは、意見や要望を気軽に話せるよい関係ができています。直ちに改善できる課題は、リーダーが即決し、検討すべき課題については組織的に検討して対応している。現在、職員より「パソコンを増台して欲しい」と要望が出ており、法人内で検討中である。	限られた時間内で、職員が事務的作業を効率よく進めるためには、パソコン増台の要求は切実な声であると思われる。要望が理解され、職員のモチベーション向上につながることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で有給休暇取得を推進しており、計画的に取得を図っている。施設内には託児所があり、女性も働き易いように整備している。職員が心も身体も、元気で働けるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標設定シートをもとに、勉強会や研修を通して個々のスキルアップを図っている。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得のため、支援体制が整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の資質向上のため、事業所以外での勉強会や研修にも参加し、相乗効果となるようにネットワークづくりを行っている。研修の受け入れも、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	雰囲気づくりを大切にし、できる限りの思いに応えることができるように努めている。職員で情報共有しながら、安心して生活して頂けるようにコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時、電話など、都度の家族の不安要素や要望を伺い、その繰り返しを大切にし、日々関係を築いている。話し易い雰囲気づくりに努めながら、意見交換を重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を把握し、本人や家族からの話をもとに職員間で情報共有し、検討する中で必要な支援を考え、ニーズを見極めながら対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や買い物を行い、話を傾聴しながら信頼関係を築いている。自尊心を大切にし、本人が生きがいを持って、楽しく笑って過ごせるよう、職員間で情報共有しながらケアに繋げている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を積極的に伝えながら、家族との共感を大切にしている。利用者本人と家族との関係に考慮しながら、思いを汲み取ることができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも連携しながら、利用者本人が生活してきた地域の行事に参加し、馴染みの方と会話をしたり、一緒に過ごせるような時間(個別活動や外出機会)を提供している。	法人内のイベントに参加することで、利用者間の交流ができ、馴染みの関係が継続できている。また、地域のサロンへ出かけたり、買い物ついでに、思い出の場所や店に立ち寄っている。個別の希望は家族が同行し、利用者の希望に応じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や相性を踏まえ、人間関係が円滑にいくように食事席や入浴のタイミングなどに配慮している。個人の生活ペースを大切にし、利用者同士の関係性を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は併設の特養へ移られた方が多く、行事などで(家族とも)顔を合わす機会があるため、対話などを通じて自然な関係が保たれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を把握し、“つぶやき”としても拾い上げながら職員で情報共有している。時に家族にも協力を仰ぎながら、思いを実現できるように努めている。	家族からの話や、個別対応時と日々のケアを通じて、利用者の思いや意向を把握している。把握した些細な内容は、アセスメント用紙や「つぶやきノート」に記入し、職員間で共有しながら、利用者の「安心・笑顔」の見えるケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報(在宅生活時の様子)を把握し、アセスメントに落とし込みながら、今までの生活スタイルをできる限り継続して頂けるようにニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活歴や希望を踏まえ、一人ひとりの一日の過ごし方に適した対応に努め、本人が納得のいく生活が送れるよう、ニーズを介護計画に落とし込むように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が自立した日常生活を営めるように、また本人にとって心地良い生活が送れるように職員で検討している。アセスメントから現状に即した支援を見出し、介護計画に反映させている。	サービス担当者会議は、家族参加が原則であり、日程調整を行い、ほぼ全員の家族が参加している。利用者が参加することもあり、介護記録や担当職員の意見をもとに、関係者が十分に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員で情報共有し、会議で検討しながらより良い支援方法を考え、介護計画の見直しを図っている。実施後の見直しも行いながら、意見交換を重ねている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに応じながら、本事業所での選択肢が限られた時には、併設事業所とも連携しながら、利用者にとって最適なサービスを受けることができるように努めている。		

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の趣味や生活歴を考えて、町内行事や地域清掃への参加など、事業所のみならず活動の場を広げて頂くことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの方にかかりつけ医があり、家族が受診を担っている。希望に応じて協力医療機関による往診手配も支援しており、受診前後の情報や結果は、家族と職員で共有している。	契約時に、かかりつけ医について、事業所の方針を利用者、家族に説明している。今までのかかりつけ医への受診は原則家族が対応し、家族の希望で、訪問受診を受け入れている。協力医の往診もあり、関係者で情報を共有しながら、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないが、介護職で判断しかねる事態が発生した際には、併設特養の看護職員や地域包括支援センターの職員に相談し、意見や助言を受ける関係性がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員やハウスマネージャーが中心となり、医療機関との調整を図っている。長期入院となる場合も、地域事業所と連携を図りながら退院時の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人のグループホームでは重度化させず、終末期の対応は行っていないことを入居前に説明し、理解を得た上でサービスを利用して頂いている。体調の変化に応じて話し合いを行い、利用者にとって適した環境で生活して頂けるように支援している。	重度化や終末期の支援について、入居時に利用者と家族に説明し、理解を得ている。状況に変化があった場合は、早い段階で家族、利用者、医師、関係者が十分に話し合い、適切な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や事故に関するマニュアルや勉強会があり、日頃から意識を高めている。事故発生記録を会議で見直し、危険予測しながら再発予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に防災・防犯訓練を行い、非常事態に対する意識付けを行っている。訓練を通して利用者の行動パターンを把握し、ケースに応じた手段を発揮できるように意見交換を重ねている。	年2回、夜間想定を含めて、防災訓練を実施している。連絡網の確認、器具の取り扱い、利用者の誘導などを行っている。水害、地震等の過去の災害事例や対策を話し合い、緊急時は事業所を避難場所として提供することを決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導や身だしなみに関する声かけについては他者の目や耳に触れぬよう、自尊心に配慮している。一人ひとりと関係性を築く中で、親しい言葉かけが当たり前になってしまわないように、職員間で注意している。	利用者一人ひとりの性格や個性を受け止め、日々の状態を考慮しながら、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。特に、入浴時や排泄の自立に向けた支援の際は、羞恥心に配慮し、利用者が安心できるような環境を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え衣類や献立に関する希望など、自己決定し易い場面づくりを心がけている。会話の中で利用者の思いを拾い上げ、内に秘めた思いもすくい上げることができるように情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、介護計画に落とし込みながら、できる限り今までの生活スタイルを継続して頂くことができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髭剃りなど、これまでの習慣を大切にしながら支援している。本人の能力(認識力)を見極めて、家族に相談しながら必要物品を用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの意欲を大切にして、できることを見極めながら食全般の楽しみを感じて頂けるよう、職員と共に食事準備や後片付けなどを行っている。共同作業は利用者同士の相性も関わってくるため、配慮している。	献立づくりや買い物も、職員と利用者が共に行い、食事作りも、利用者の今までの経験や、残存機能が発揮できるよう役割りを決めて一緒に行なっている。職員と利用者が、同じテーブルで次の献立を話題にしながら、皆で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの特性(嗜好やペース)を把握し、提供している。状態に応じて本人や家族に相談しながら、体重が増加傾向の方は盛り付け量に配慮したり、食欲減退の方はバナナやゼリーなどの捕食を用意して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、声かけや見守り、介助をしている。違和感や義歯の不具合などが生じた際には、歯科受診を勧めている。また希望に応じ、往診手配をしている。		

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	大半の方が自立だが、一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレで排泄をすることができるよう支援している。床を汚され易い方は使用後に確認をしたり、転倒の危険性がある方はスリッパの向きに注意するなど個別対応している。	自立の利用者が多く、昼夜共トイレでの排泄が習慣になっている。職員はさりげなく見守り、排泄後に見回って健康状態を把握したり、次の利用者が安全に使えるよう整えている。職員の支援により、おむつから、布パンツに変わった利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きが活発になるような食材を献立に取り入れ、日常的な運動時間も設けている。排便状態に応じてかかりつけ医に相談し、内服薬での調整も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方からの入浴を基本とし、一人ひとりの希望や拘りに可能な限り応じながら、平等に入浴して頂けるようにタイミングを図っている。利用者同士の関係性にも配慮しながら、心地良く入浴できるように整えている。	お風呂は、毎日、自宅にいた時と同じように、夕方入浴ができるよう準備している。回数、順番は利用者の希望を受け入れ柔軟に対応している。浴室は広く、気の合う仲間と一緒に入る人、個浴を楽しむ人など、個々に入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人や家族の情報をもとに、入居前の生活を踏まえながら電灯の明るさや空調などを考慮し、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容を理解・共有し、服用後の身体の変化を見逃さないようにしている。誤薬事故予防に関する意見交換を毎月の会議で必ず行い、薬に関する認識強化と事故が発生し難い環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や生け花、調理、縫製など、一人ひとりのやりたい(できる)ことや得意なことを考え、居場所や役割を感じられるような毎日が過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人の希望や季節に応じ、定期的に個別や全員での外出機会を設けながら気分転換を図って頂いている。行きつけのスーパーなどの外出先では地域(知り合い)の方から声をかけられる場面もあり、馴染みの関係性ができている。	自立の利用者が多く、天気の良い日は近隣を散歩している。食材の買い物や喫茶店、花見、法人内の交流などで、外出の機会は多く、利用者が公平に外出できるよう配慮している。また、家族の協力を得て、外出することもある。	



岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には小遣いの取り扱いについて利用者に説明を行い、同意を得た上で一人ひとりの財布を金庫で保管し、希望された時に使用できるように支援している。小遣い帳(記録)をもとに、毎月の収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人の希望に応じて、電話や手紙の郵送手配を行っている。毎年家族宛に、全員の方が年賀状を書かれている。私信が届いた際には本人に手渡しし、家族にも報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を得られるような花を飾り、清潔感を保つように努めている。一人ひとりの動線に注意しながら、灯りや音のメリハリにも留意し、利用者が寛いで生活して頂けるように環境を整えている。	共用空間は清潔で広々としている。台所も利用者が食事作りに参加できるよう、広くて動きやすい工夫されている。天候に合わせて、換気を行い、窓越しに見える景色で季節を感じながら、ゆっくりとくつろぐことの出来る環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や利用者同士の相性を踏まえ、食事席やソファの配置を考慮している。利用者同士のトラブルにも注意しながら、一人ひとりの居場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、洗面台、天袋、エアコンが備わっている。それ以外にも、在宅時から使用していた家具や愛用している物、家族との写真などを持ち込んで頂き、本人にとって落ち着ける環境づくりを考えている。	居室には、清潔が保たれた洗面台があり、ベッドや寝具、家具を使いやすく安全に配置している。家族の写真、手作りの作品などを並べ、ゆっくりと自分らしく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には手すりが設置されており、一人ひとりの特性を踏まえて、安全かつ動き易さを考えて家具を設置している。身体状況に応じて家族に相談しながら、履物の見直しをしている。		